

2009年度 学校自己評価システムシート (自由の森学園中学校)

目指す学校像	深い知識、豊かな表現、等身大の体験、自立した自由を育む、自由の森の「視(ものみかた)」の教育
--------	--

重点目標	1. 中学においては学校6日制移行による「学び」の充実をすすめていく。 2. 「25周年行事」を成功させることにより、自由の森学園の存在意義を、在校生、卒業生、在校生保護者、地域の人々とともに確認していく。 3. 地域に開かれた学校づくりを目指す。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	保護者	5名
	卒業生	3名
	事務局(教職員)	5名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(6月10日現在)		
年度目標					評価項目の達成状況	誠	次年度への課題と改善策
番号	評価項目	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標			
1	中学においては学校6日制移行による学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・中学においては2010年度学校6日制実施に向けて各教科のカリキュラム内容の見直しを引き続き行う。 ・中学校6日制による生徒の生活面への影響も考える。 ・中学1年生は09年度より6日制を先行実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会において検討課題を明確にし、研究部会において相互に見合い、公開研究会において多くの参加者とともに検討を深める。 ・学年会、中学部会を中心に、学校6日制による生徒の生活面での問題点を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科においてより充実した教育課程作成に取り組み始めたか? ・学校6日制による生徒の生活面での問題点を検討することができたか?とくに中学1年生の状況を参考にして検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学等において、1つのテーマにじっくりと時間をかけて取り組むことができた。 ・生活面においては週末になると少し疲れ気味になる生徒もいたが、次第にリズムが作れてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、中学校全体が6日制になるため、生徒ひとり一人の様子、家庭での生活、さらに寮生活や教職員の勤務体制など、6日制を見通した準備・実践がこれまで以上に必要になる。
2	「25周年行事」を成功させることにより、自由の森学園の存在意義を、在校生、卒業生、在校生保護者、地域の人々とともに確認していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・08年度より保護者、教員、卒業生を含めて実行委員会が組織され準備が進んでいる。 ・卒業生、保護者、教員、在校生などが自由の森に集い、相互につながりがもてるような行事にしていく。 ・地域の方々へも参加呼びかけをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在校生は登校日として、さまざまな卒業生と出会うことにより、自由の森での学びと卒業後の自分を考えられるように、いろいろなイベント企画への参加を促す。 ・地域の方へ招待状などを配布し、積極的な呼びかけを行う。当日は記念品の配布し、保護者と教職員でご挨拶をしまわる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、教員、卒業生が協力して準備から当日までを作り上げることができたか。 ・在校生がさまざまな企画、イベントに参加し、卒業生などと交流できたか。 ・地域の方々に参加してもらい、自由の森学園への理解を深めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当日までの過程の中でプレ企画なども行われ、三者が協力して当日を迎えることができた。 ・在校生もさまざまな企画、人との出会いの中で、自由の森学園をさまざまな角度から見ることができた。 ・地域の方々の参加も多数あった。記念品も好評であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自由の森学園は、生徒と教員、保護者の三者、それに卒業生も含めた四者の協力によって成り立っていることを再確認できた。この関係を今後もより一層強いものにしていきたい。 ・周年行事をきっかけに今後も地域の方々への参加を呼びかけ、自由の森学園への理解を深めていく。
3	地域に開かれた学校づくりを目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流・連携は確実に進んでいる。 ・より一層自由の森学園への理解を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年で行っている米づくりを地域の方の協力をもとめ進めていく。 ・総合学習の時間に地域とのつながり活かした企画を立てる。 ・地域の祭りへの生徒参加 ・市民に関く公開講座 ・地域清掃活動への参加。 ・飯能ツーディマーチへの運営協力。生徒ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教師の地域への積極的な参加の意識が高まったか。 ・どれだけ自由の森学園を地域に発信できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の米づくりは今まで同様に地域の農家の協力を得て実行した。 ・2年の米づくりは小岩井の休耕田を新たに借りて、地域の方及び飯能市の協力を得て実施された。 ・1年の総合学習の時間に「飯能を知ろう」という企画が実施された。 ・祭り、ツーディマーチなど生徒教師の地域へのかかわりが、多くなってきている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで以上に飯能という地域性を生かし総合学習の時間を中心に積極的に学んでいく。 ・今後もさまざまなイベント参加を通して地域との関わりを継続していく。

学校関係者評価	
実施日	平成22年8月27日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日に授業をすることによって全体的にゆとりが出来てきたことは評価できる。 ・今後も生徒たちの状況をよく把握し進めていってほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の参加が多いことは評価できる。 ・地域の方の参加も多かったということも大いに評価できることである。 ・卒業生の思いを在校生に伝えることをもっと工夫してもいいだろう。たとえば、卒業生からの手紙など。 ・今回の周年行事の母体は保護者であったが、少しずつ卒業生に移していくことも大切ではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域との結びつきはとても重要なので今後も大切に進めていってほしい。 ・地域の歴史などをもっと積極的に教材化していったらどうか。 	

2009年度 学校自己評価システムシート (自由の森学園高等学校)

目指す学校像	深い知識、豊かな表現、等身大の体験、自立した自由を育む、自由の森の「観(ものみかた)」の教育
--------	--

重点目標	1. 「自分たちの問題を自分たちで考え、決めていく」ことの取り組みをすすめていく。 2. 「25周年行事」を成功させることにより、自由の森学園の存在意義を、在校生、卒業生、在校生保護者、地域の人々とともに確認していく。 3. 地域に開かれた学校づくりを目指す。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	保護者	5名
	卒業生	3名
	事務局(教職員)	5名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(6月10日現在)		
年度目標					評価項目の達成状況	誠度	
番号	評価項目	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標			次年度への課題と改善策
1	高校を中心に、「自分たちの問題を自分たちで考え、決めていく」ことの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や修学旅行は生徒の実行委員会が中心になって行われている。しかしながら、「決定」は生徒の実行委員会を受けて教員の学年会や職員会議で決定することがある。結果的に教師に依存する状況を生んでしまっているのではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の問題意識を持つ教員と生徒の呼びかけにより「高2学年の会」という生徒と教員で協議し決定していく「会」を試行的にはじめる。体育祭の学年種目や、学年ワーク、学園祭の学年ねぶたなどを、実行委員会などからの「申し入れ」にもとづき協議していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年の会が学年を取り仕切るといふことでなく、何かをしたい、この事について話したいという意を持ち込める場になっていった。 生徒と教員とで何かを「決定する場」になっていった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年ワーク、学年ねぶた、学年合唱などが、「学年の会」として取り組みたいと申し入れがされ、学年集会に提案されていった。学年の会が母体となることで、1つの流れとしての取り組みが実現した。 教員に相談されるさまざまな問題のうち、教員個人が引き受けるべき問題以外は学年の会に持ち込むような流れが出来つつある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 高校2年ではじまった学年の会の実践を校内の研究会で検討し、他の学年においても生徒とともに可能性を探っていくことが確認された。 新高校3年は学年の会をさらに発展させ、「自分たちの問題を自分たちで」という意識を手に入れることが出来るようすすめていく。
2	「25周年行事」を成功させることにより、自由の森学園の存在意義を、在校生、卒業生、在校生保護者、地域の人々とともに確認していく。	<ul style="list-style-type: none"> 08年度より保護者、教員、卒業生を含めて実行委員会が組織され準備が進んでいる。 卒業生、保護者、教員、在校生などが自由の森に集い、相互につながりがもてるような行事にしていく。 地域の方々へも参加呼びかけをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 在校生は登校日として、さまざまな卒業生と出会うことにより、自由の森での学びと卒業後の自分を考えられるように、いろいろなイベント企画への参加を促す。 地域の方へ招待状などを配布し、積極的な呼びかけを行う。当日は記念品の配布し、保護者と教職員でご挨拶をしまわる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、教員、卒業生が協力して準備から当日までを作り上げることができた。 在校生がさまざまな企画、イベントに参加し、卒業生などと交流できた。 地域の方々に参加してもらい、自由の森学園への理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 当日までの過程の中でブレ企画なども行われ、三者が協力して当日を迎えることができた。 在校生もさまざまな企画、人との出会いの中で、自由の森学園をさまざまな角度から見ることができた。 地域の方々への参加も多数あった。記念品も好評であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自由の森学園は、生徒と教員、保護者の三者、それに卒業生も含めた四者の協力によって成り立っていることを再確認できた。この関係性を今後もより一層強いものにしていきたい。 周年行事をきっかけに今後も地域の方々への参加を呼びかけ、自由の森学園への理解を深めていく。
3	地域に開かれた学校づくりを目指す	<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流・連携は確実に進んでいる。 より一層自由の森学園への理解を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の1級建築士による選択講座を開講する。 飯能地域研究と飯能市のエコツアーとの連携の実現。 地域の祭りへの生徒参加 飯能ツアーディマーチへの運営協力。生徒ボランティア 市民に開く公開講座 市内の中学への出張授業。 地域清掃活動への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・教師の地域への積極的な参加の意識が高まった。 どれだけ自由の森学園を地域に発信できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1級建築士による講座「森と木の家」開講した。20名近くの生徒が受講した。 「地域研究」の生徒による飯能エコツアーの実現し、好評。 祭り、ツアーディマーチなど生徒教師の地域へのかかわりが、多くなってきている。 地域の中学校での出張授業が増加している。5校で実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中学校への授業をさらに増やしていく。 選択授業を中心に、もっと地域に視点を置き、学んでいく時間を増やしていくとともに、地域の方を講師に招いたりして、学びを深めていく。 今後も出張授業やさまざまなイベント参加を通して地域との関わりを継続していく。

学校関係者評価	
実施日	平成22年8月27日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教員がこのようなコミュニケーションがとれているということは大いに評価できる。 教員と生徒が同じ場で決定していくことは他校にはない自由の森学園の特質となる実践である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の参加が多いことは評価できる。 地域の方の参加も多かったということも大いに評価できることである。 卒業生の思いを在校生に伝えることをもっと工夫してもいいだろう。たとえば、卒業生からの手紙など。 今回の周年行事の母体は保護者であったが、少しずつ卒業生に移していくことも大切ではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> 地域との結びつきはとても重要なので今後も大切に進めていってほしい。 地域の歴史などをもっと積極的に教材化していったらどうか。 	